

地域守ることがBCP

本社移転し成長路線導く



モチベーション
高まる社内

第一コンサルタantz

そしてコミュニケーションを下支えする。雇用をつくり、地元の働く場も創出してきたい」。右城社長は新社屋の移転を通し、そうした思いを強く抱く。

高知県の人口は毎年7000人ほどが減少し、このうち2000人規模が県を離れている。「まずは東京の建設コンサルタantzに肩を並べるぐらいまで、わが社の給与水準を引き上げろ。高知に本社を置くメリットとしては固定費の安さや通勤の便利さもある。あとは社員の質（能力）が高まれば、企業として着実に成長できる」

「この社屋が地域の避難所になる」と、第一コンサルタantz（高知市）の右城猛社長は力を込める。同社が本社社屋を移転したのは2015年9月のことだ。地域との災害協定も結び、社屋への受け入れ体制も整えた。「もしもの時にはここが地域復興の最前線になる。地域を守ることが、われわれ建設コンサルタantz



右城社長

にとつてのBCP（事業継続計画）にほかならない。東日本大震災の惨劇を見て、本社移転を決意した。旧社屋は老朽化とともに、敷地地盤が悪く、大地震の際には液状化の恐れもあった。海抜も2〜3層の地点で、津波による浸水も懸念材料だった。5年以内に移転することを社内へ伝え、偶然にも同じく高知市内に条件にあった土地がみつかり、迷うことなく移転を決めた。所在地は高知市介良甲828-1。海抜6層の位置だが、津波の想定区域からも外れた好立地だ。

県内大手の総合コンサルとして18年11月に創立55周年を迎える同社では、社名の『第一』に「人々からの期待度」と「社員の満足度」の2つでナンバーワンになるといふ思いを込めている。高知のインフラを守り、

社員は1200人を超えた。3年以上働く契約社員は積極的に正社員として迎え入れられている。右城社長は「アットホームな社風がわが社の売り。実は独立した社員も仕事を通じたつながりが強く、ともに成長しようという流れになっていく。建設コンサルタantzの強さは人であり、優秀な人材が育っていれば、本社が東京でも高知でも場所を問わず、勝負できる」と確信している。

